

# 「命を育むみなとのブルーインフラ拡大プロジェクト」について①

- 沿岸域に生息する藻場等の海洋植物にCO<sub>2</sub>として取り込まれた炭素が「ブルーカーボン」と命名された。
- 近年、ブルーカーボン生態系を活用した取組が注目を集め、海域環境の改善や温室効果ガスの吸収源対策の観点からブルーカーボンに関する取組が加速化。
- こうした状況を踏まえ、「みなと」でのブルーカーボン生態系を活用した取組を全国展開していくため、「命を育むみなとのブルーインフラ※拡大プロジェクト」として取組をさらに進めていく。

※藻場・干潟等及び生物共生型港湾構造物

## ブルーカーボン生態系による効果

### ブルーカーボン生態系



海草(うみくさ)藻場



海藻(うみも)藻場



干潟



マングローブ

水質浄化

温暖化抑制  
(炭素貯留)

食料供給  
(水産振興)

様々な環境価値をもたらす

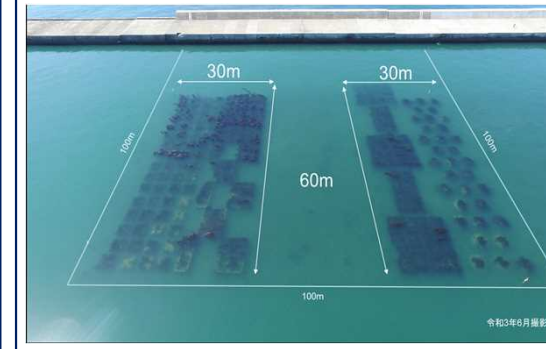
## 「命を育むみなとのブルーインフラの取組事例」

### 【浚渫土砂の活用】



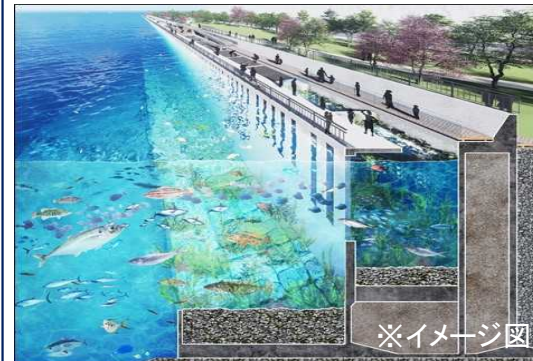
(山口県徳山下松港・大島干潟)

### 【防波堤の活用】



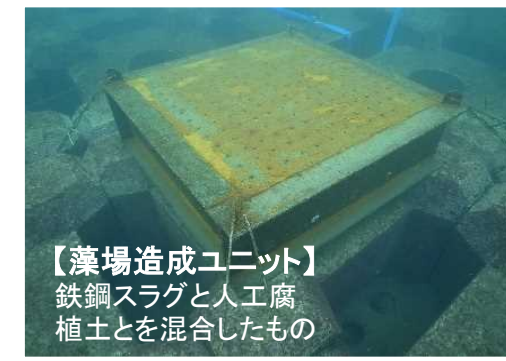
(北海道釧路港)

### 【生物共生型港湾構造物の整備】



(神奈川県横浜港)

### 【リサイクル材の活用】



【藻場造成ユニット】  
鉄鋼スラグと人工腐植土とを混合したもの

(高知県須崎港)

# 「命を育むみなのブルーインフラ拡大プロジェクト」について②

○「命を育むみなのブルーインフラ拡大プロジェクト」においては、ブルーインフラの保全・再生・創出の拡大に向けた環境整備等の取組を短期集中的(令和5年度まで)に進める。

## ブルーインフラの全国展開

○ブルーインフラ拡大に向けた先導的な取組の推進

- ・今後、全国の港湾区域内で藻場・干潟等の保全・再生・創出に関する先導的な取組を推進する。
- ・令和4年度内を目途に官民が連携して支援する先導的な取組を募集予定。

(想定する主な支援内容)

- ・官: 藻場・干潟等の担い手・関係者(NPO、企業、自治体等)のマッチング支援及び普及啓発
- ・民: 藻場・干潟等の保全に関する活動経費の支援(クレジット制度等)

## ブルーインフラの保全・創出に関する環境整備

○藻場・干潟等の保全・再生・創出による

社会経済効果の算定手法の確立

- ・温室効果ガス吸収源の拡大効果の簡便な算定手法を検討する。

○港湾施設の設計・工事における

環境保全への配慮に係る取組の強化

- ・今後整備する港湾施設(護岸等)を生物共生型の構造とする標準化を目指し、技術基準の改正を検討するとともに、港湾工事(直轄事業)で試行工事を実施する方向で検討を行う。

等

## 【クレジット制度イメージ】

